



## 問15

得意先が倒産し、売掛金¥94,000 が回収不能となった。商品注文時に受け取っていた¥24,000 の手付金と相殺するとともに、残額は貸倒れとして処理する。なお、残額のうち¥10,000 は当期に販売した商品にかかる売掛金であり、貸倒引当金勘定の残高は¥70,000 であった。

ア. 貸倒損失 イ. 貸倒引当金 ウ. 前受金 エ. 前払金 オ. 買掛金  
カ. 売掛金 キ. 償却債権取立益 ク. 貸倒引当金繰入

## 仕訳問題【実践問題 4】

第1問対策



## Question

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は各取引の下の勘定科目の中からもっとも適当と思われるものを選び、解答欄に記号で解答すること。

- 問1** 商品¥90,000 をクレジットカードにより販売した。なお、信販会社へのクレジット手数料は販売代金の1%であり、販売時に計上する。  
ア. 現金 イ. 売掛金 ウ. クレジット売掛金 エ. 受取手数料  
オ. 支払手数料 カ. 売上
- 問2** 倉庫のドアが破損したため取替えを行い、その費用¥55,000 が普通預金口座より引落された。また、倉庫の耐震構造に改築するための支出額¥2,000,000 を小切手振出しにより支払った。  
ア. 当座預金 イ. 建物 ウ. 修繕費 エ. 減価償却費 オ. 普通預金  
カ. 備品減価償却累計額 キ. 備品
- 問3** ×3年4月1日に取得した備品（取得原価¥2,400,000、残存価額ゼロ、耐用年数8年、定額法により償却、間接法により記帳）が不要になったので、×6年度の期首（×6年4月1日）に¥750,000で売却し、代金は翌月末に当社の普通預金口座に振り込まれることとなった。  
ア. 固定資産売却損 イ. 未収入金 ウ. 売掛金 エ. 備品 オ. 売上  
カ. 備品減価償却累計額 キ. 固定資産売却益 ク. 減価償却費  
ケ. 普通預金
- 問4** 出張旅費を自費で立替払いしている従業員が出張から帰社したため、代金を現金で手渡した。なお、出張旅費に関する領収書は次のとおりである。  
ア. 現金 イ. 従業員立替金 ウ. 従業員借入金 エ. 未払金  
オ. 給料 カ. 旅費交通費 キ. 普通預金

ア. 給料 イ. 借入金 ウ. 現金 エ. 当座預金 オ. 受取手形  
 カ. 支払手形 キ. 買掛金 ク. 支払手数料 ケ. 支払利息 コ. 売掛金  
 サ. 受取利息 シ. 普通預金 ス. 手形貸付金 セ. 所得税預り金  
 (勘定科目は何度でも使用できる)

- 問15** 商品を売り上げ、品物とともに次の納品書兼請求書の原本を発送し、代金の全額を掛代金として処理した。また、株式会社滝口商事への請求額と同額の送料を現金で支払った。

納品書兼請求書 (控)			
株式会社滝口商事 御中		芥川食品株式会社	
品 物	数量	単価	金 額
高級カレー	35	300	¥10,500
クリームシチュー	40	250	¥10,000
ビーフシチュー	20	200	¥4,000
送料	—	—	¥600
合計			¥25,100
<p>× 7 年 4 月 25 日までに合計額を下記口座へお振込みください。</p> <p>吉田銀行山口支店 普通 2244798 アクタガワシヨクヒン (カ)</p>			

ア. 売上 イ. 仕入 ウ. 売掛金 エ. 発送費 オ. 買掛金  
 カ. 仮払消費税 キ. 現金

- 問16** 以下の納付書にもとづき、当社の普通預金口座から消費税を振り込んだ。

領収証書			
科目	消費税及び地方消費税	本 税	300,000
		〇 〇 〇 税	
		△ △ 税	
住 所	福岡県粕屋郡	□□税	
		××税	
氏 名	株式会社筑紫商事	合計額	¥ 300,000
		納期等 X30401 の区分 X40331 中間申告 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">確定申告</span>	
		<div style="border: 2px solid black; border-radius: 50%; width: 100px; height: 100px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 0 auto;">             出納印              × 4.5.25              石川銀行           </div>	

**問 12** 銀行から手形代金 ¥1,000,000 と利息 ¥30,000 が当座預金口座に入金されたとの連絡を受けた。この手形は大澤株式会社に現金 ¥1,000,000 を貸し付けた際に受け取っていた同社振出の約束手形である。また、利息はこの貸し付けに対するもので、契約上、回収期日に送金を受ける予定になっていたものである。

ア. 現金 イ. 受取手数料 ウ. 当座預金 エ. 貸付金 オ. 手形貸付金  
カ. 受取利息

**問 13** 得意先から先月締めの掛代金 ¥300,000 を回収して、振込手数料 ¥200（当社負担）を差し引かれた残額が当社の普通預金口座に振り込まれた。

ア. 当座預金 イ. 普通預金 ウ. 支払手数料 エ. 売掛金 オ. 買掛金  
カ. 現金 キ. 受取手数料 ク. クレジット売掛金

**問 14** 7月26日、本年度の雇用保険料（概算）¥84,000 を現金で一括納付した。このうち会社負担分は、¥56,000 であり、残額は従業員負担分である。従業員負担分は、4～6月分については過去の給料から月額を差し引いているためこれを充当するが、7月以降の9か月分は会社が概算へ立て替えて支払う。

ア. 従業員預り金 イ. 所得税預り金 ウ. 社会保険料預り金  
エ. 従業員立替金 オ. 現金 カ. 法定福利費

**問 15** 約束手形を振り出すことで、取引銀行より、¥5,000,000 を期間10か月（年利6%）で借り入れていたが、本日返済期日となり借入期間の利息とともに小切手を振り出して支払った。

ア. 手形貸付金 イ. 手形借入金 ウ. 支払手形 エ. 当座預金  
オ. 現金 カ. 借入金 キ. 支払利息

## 解 答

備	品
× 3 年 4/1 前期繰越 ( 4,300,000)	× 4 年 3/31 次期繰越 ( 10,300,000)
× 3 年 8/1 現 金 ( 6,000,000)	
( 10,300,000)	( 10,300,000)
× 4 年 4/1 前期繰越 ( 10,300,000)	

減価償却累計額	
× 4 年 3/31 次期繰越 ( 3,475,000)	× 3 年 4/1 前期繰越 ( 1,475,000)
( 3,475,000)	× 4 年 3/31 〔ウ〕 ( 2,000,000)
	( 3,475,000)
	× 4 年 4/1 前期繰越 ( 3,475,000)

減価償却費	
× 4 年 3/31 減価償却累計額 ( 2,000,000)	× 4 年 3/31 〔キ〕 ( 2,000,000)
( 2,000,000)	( 2,000,000)



## 解 説

各取引について仕訳し、その勘定科目から記入する帳簿を判断します。仕入や売上に関する取引は、商品有高帳に記入することを忘れずにしましょう。

2日：(借) (仕 入) 2,340,000 (貸) (買 掛 金) 2,340,000

仕入帳、商品有高帳

仕入先元帳

13日：(借) (受 取 手 形) 350,000 (貸) (売 上) 1,350,000

受取手形記入帳

売上帳、商品有高帳

(借) (売 掛 金) 1,000,000

得意先元帳

17日：(借) (買 掛 金) 850,000 (貸) (支 払 手 形) 850,000

仕入先元帳

支払手形記入帳

18日：(借) (買 掛 金) 7,000 (貸) (現金過不足) 30,000

仕入先元帳

(雑 損) 27,000 (受取手数料) 4,000

20日：(借) (現 金) 1,000,000 (貸) (売 掛 金) 1,000,000

現金出納帳

得意先元帳

21日：(借) (売 上) 22,000 (貸) (売 掛 金) 22,000

売上帳、商品有高帳

23日：(借) (建 物) 5,000,000 (貸) (仮 払 金) 2,000,000

固定資産台帳

(当 座 預 金) 3,000,000

# 精算表1【基本問題 1】

第3問対策



## Question

以下の決算整理事項を参照にして、解答用紙に示す精算表を完成させなさい。なお、会計期間は令和×9年4月1日から令和×10年3月31日までの1年間である。

### 資料

1. 仮払金の内訳は以下のとおりであった。
  - ①当期に備品を発注した際に、購入代金を前払いした¥28,000である。なお、この備品は令和×10年1月1日に引渡を受け、すでに使用を始めている。
  - ②出張中の社員が帰社し、旅費として¥4,000を全額精算した。
2. 仮受金の内訳は以下のとおりであった。
  - ①出張中の社員から送金されてきた¥30,000は、帰社後、売掛金の回収と判明した。
  - ②商品の注文を受けた際に受け取った手付金が¥12,000ある。
3. 売掛金の期末残高に対して2%の貸倒を見積もる。貸倒引当金の設定は実績法によること。
4. 期末商品の棚卸高は¥32,000である。売上原価は「仕入」の行で計算すること。
5. 切手の期末未使用高は¥4,000である。
6. 備品について定額法により減価償却を行う。
 

旧備品 耐用年数：10年 残存価額：取得原価の10%

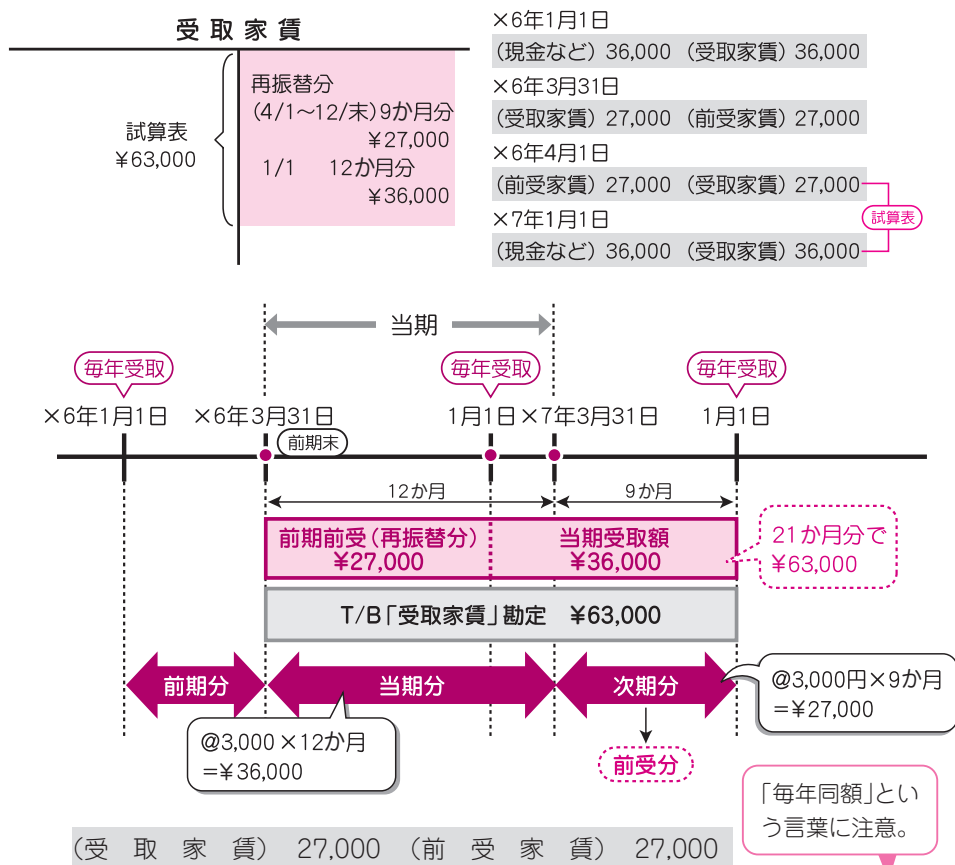
新備品 耐用年数：5年 残存価額：ゼロ（新備品については、月割計算）
7. 支払家賃は、1か月¥5,000で、毎年2月1日と8月1日に向こう6か月分を支払っている。
8. 保険料のうち¥2,400は、令和×10年1月1日に、向こう1年分を支払ったものである。
9. 借入金のうち¥60,000は、令和×9年11月1日に仕入先から借入期間1年、年利率6%で借り入れたもので、利息は元金とともに返済期日に支払うことになっている。当期分の利息は月割計算による。
10. 受取家賃は12か月分であり、そのうち3か月分が未経過である。



10. 支払家賃は、新規に賃借した事務所家賃で1か月¥8,000で、毎年6月1日と12月1日に向こう6か月分を支払っている。
11. 保険料のうち¥2,400は、×6年9月1日に、向こう1年分を支払ったものである。
12. 借入金¥50,000は、×6年10月1日に借入期間1年、年利3%で借り入れたもので、利息は借入時に全額差し引かれている。当期分の利息は月割計算による。
13. 貸付金¥20,000は×6年7月1日に得意先に対して貸付期間1年、年利4%で貸し付けたもので、利息は元金とともに返済期日に受け取るになっている。当期分の利息は月割計算による。
14. 受取家賃¥36,000は、所有する建物の一部の賃貸によるもので、毎年同額を10月1日に12か月分として受け取っている。



## 14 前受家賃の計上



※本問の場合、P/Lで貸方側が小さくなっている(費用>収益)ので当期準損失です。  
 当期準損失の場合は、B/S借方側に同じ数字を記入します(純資産の減少)。



### 【経過勘定について】

経過勘定とは、現金のやりとり(支出・収入)と、計上すべき収益や費用のタイミングがズレたときに生じます。

これまで経過勘定科目とは、「前払費用」「前受収益」「未払費用」「未収収益」の4つを総称していました。



## 解 答

## 損 益

費 用	金 額	収 益	金 額
*1 仕 入	( 1,200,000)	*2 ( 売 上 )	( 2,382,600) ← 解説3
給 料	( 206,000)	*3 受 取 利 息	( 29,600)
解説2 → 貸倒(引当金繰入)	( 8,800)	雑 ( 益 )	( 400) ← 解説1
解説3 → 減 価(償 却 費)	( 144,000)		
支 払 家 賃	( 46,000)		
保 険 料	( 7,500)		
雑 費	( 6,900)		
法人税・住民税及び事業税	( 25,000)		
( 当期純利益 )	( 差額 768,400)		
	( 2,412,600)		( 2,412,600)

一致

## 貸 借 対 照 表

岡山商会

×6年3月31日

資 産	金 額	負債および純資産	金 額
*3 現 金 預 金	(759,000)	買 掛 金	( 362,000)
売 掛 金	(420,000)	( 未 払 ) 家 賃	( 18,000)
解説2 → (貸 倒 引 当 金)	(△16,800) (403,200)	( 未 払 法 人 税 等 )	( 15,000)
*5 商 品	(420,000)	資 本 金	( 800,000)
(前 払) 保 険 料	( 3,800)	*6 (繰越利益剰余金)	( 差額 968,400) ←
(未 収) 利 息	( 6,400)		
貸 付 金	(270,000)		
備 品	(430,000)		
*5 (減価償却累計額)	(△129,000) (301,000)		
	( 2,163,400)		( 2,163,400)

一致

# 損益計算書と貸借対照表の作成1

## 【実践問題 1】

第3問対策



### Question

次の(1) 決算整理前残高試算表および(2) 決算整理事項等にもとづいて、解答用紙の損益計算書および貸借対照表を完成させなさい。なお、会計期間は×7年4月1日から×8年3月31日までの1年間である。

#### ① 決算整理前残高試算表

##### 残 高 試 算 表

×8年3月31日

借 方	勘 定 科 目	貸 方
128,000	現 金	
175,000	普 通 預 金	
340,000	電 子 記 録 債 権	
289,000	売 掛 金	
90,000	仮 払 法 人 税 等	
177,000	繰 越 商 品	
850,000	貸 付 金	
950,000	建 物	
400,000	備 品	
560,000	土 地	
	電 子 記 録 債 務	514,000
	買 掛 金	153,000
	仮 受 金	28,000
	貸 倒 引 当 金	9,000
	建物減価償却累計額	342,000
	備品減価償却累計額	240,000
	資 本 金	2,000,000
	繰越利益剰余金	650,000
	売 上	4,703,000
4,010,000	仕 入	
370,000	給 料	
162,000	旅 費 交 通 費	
59,000	水 道 光 熱 費	
33,000	通 信 費	
45,000	保 険 料	
1,000	雑 損	
8,639,000		8,639,000

#### ② 決算整理事項等

1. 決算直前に保有していた土地¥590,000をすべて売却したが、未処理であった。なお、売却代金は後日受け取る。
2. 掛けで仕入れた商品¥2,500が返品された未処理であった。
3. 仮受金の残高は、得意先に対する売掛金の回収分であった。
4. 現金実査を行ったところ、現金の実際有高は¥120,000であった。帳簿残高との不一致原因は不明のため、雑損または雑益として処理する。
5. 期末商品の棚卸高(2.の返品処理後)は¥280,000である。
6. 電子記録債権および売掛金の期末残高に対して2%の貸倒れを見積り、差額補充法により貸倒引当金を設定する。
7. 建物および備品について、定額法により減価償却を行う。  
建物：耐用年数20年、残存価額取得原価の10%  
備品：耐用年数5年、残存価額ゼロ
8. 貸付金は、当期の1月1日に貸付期間12か月、利率3%で貸し付けたものである。利息は返済時に受け取るため、決算にあたっては利息の未収分を計上する(利息の計算は月割りによること)。
9. 保険料は、全額建物に対する火災保険料であり、毎年同額を8月1日に1年分支払っている。
10. 当期の法人税等が¥320,000と計算されたので、仮払法人税等との差額を未払法人税等として計上する。



## 注意

**損益計算書記入上の注意**

- ① 会計期間を記入します。
- ② 表示に注意！ 売上勘定は「売上高」  
仕入勘定は「売上原価」
- ③ 最後に貸借差額を当期純損益として計上します。

**貸借対照表記入上の注意**

- ① 決算日を記入します。
- ② 貸倒引当金の勘定残高は、売掛金と受取手形から個別に控除する形で表示します。
- ③ 減価償却累計額の勘定残高は、備品から控除する形で表示します。
- ④ 表示に注意！ 繰越商品勘定は 「商品」  
費用の前払い額は 「前払費用」  
収益の前受け額は 「前受収益」  
収益の未収額は 「未収収益」
- ⑤ 繰越利益剰余金は試算表の残高に当期純利益を加算した金額です。

## ★損益計算書

借方合計＝¥5,017,020

貸方合計＝¥4,739,375

費用＞収益なので

$$¥5,017,020 - ¥4,739,375 = ¥277,645$$

これが当期純損失となる。

## ★貸借対照表

$$\text{繰越利益剰余金} = \text{前 T/B より } ¥650,000 - \text{当期純損失 } ¥277,645 = ¥372,355$$

前 T/B より

当期純損失

## 7 減価償却費

問題文の指示により、減価償却は行いません。なお、減価償却完了後も処分しない場合は、備忘記録として、1円を残して最後の減価償却を行います。ですから、今回の問題は仕訳なしです。

## 8 法定福利費の未払い（負債）

(借) 法定福利費	2,000	(貸) 未払法定福利費	2,000
-----------	-------	-------------	-------

P/L 「法定福利費」 =  $\yen1,200 + \yen2,000 = \yen3,200$

B/S 「未払費用」 =  $\yen2,000$

## 9 収益の未収（資産）

(借) 未収手数料	2,600	(貸) 受取手数料	2,600
-----------	-------	-----------	-------

B/S 「未収収益」 =  $\yen2,600$

P/L 「受取手数料」 =  $\yen17,000 + \yen2,600 = \yen19,600$

## 10 費用の前払い（資産）

支払家賃 =  $\yen96,000 \times 8 \text{ か月} / 12 \text{ か月} = \yen64,000$

これが前払費用  
となります。

(借) 前払費用	64,000	(貸) 支払家賃	64,000
----------	--------	----------	--------

B/S 「前払費用」 =  $\yen64,000$

P/L 「支払家賃」 =  $\yen96,000 - \yen64,000 = \yen32,000$

## 11 手形借入金

決算整理前残高試算表に「前払利息」がないことと、「支払利息」が  $\yen120,000 \times 4\% = \yen4,800$  計上されていることから、全額を「支払利息」として計上したことが分かります。

この  $\yen4,800$  は、10月1日からの向こう1年分であるので、4/1 ~ 9/30までの6か月分を前払利息（資産）として振り替えます。

## 解答用紙

## 損益計算書

〇〇株式会社

×5年4月1日～×6年3月31日

(単位：円)

費 用	金 額	収 益	金 額
売 上 原 価	( )	売 上 高	( )
給 料	( )	受 取 手 数 料	( )
法 定 福 利 費	( )	雑 ( )	( )
支 払 家 賃	( )	当 期 純 損 失	( )
支 払 利 息	( )		
貸倒引当金繰入	( )		
減 価 償 却 費	( )		
法人税、住民税及び事業税	( )		
	( )		( )

## 貸借対照表

×6年3月31日

資 産	金 額		負債および純資産	金 額
現 金		( )	支 払 手 形	( )
普 通 預 金		( )	買 掛 金	( )
当 座 預 金		( )	借 入 金	( )
受 取 手 形	( )		未 払 金	( )
貸 倒 引 当 金	(△ )	( )	未 払 費 用	( )
売 掛 金	( )		未 払 法 人 税 等	( )
貸 倒 引 当 金	(△ )	( )	社 会 保 険 料 預 り 金	( )
商 品		( )	資 本 金	( )
前 払 費 用		( )	繰 越 利 益 余 剰 金	( )
未 収 収 益		( )		
備 品	( )			
減価償却累計額	(△ )	( )		
		( )		( )